

[研究論文]

学級活動の各内容の特質に応じた授業援助
～学級活動(1)(2)(3)プランニングシートを通して～Class assistance according to the characteristics of each class activity
～Through class activity (1)(2)(3) planning sheet～

脇 田 哲 郎

Tetsuro WAKITA

福岡教育大学大学院教育学研究科教職実践専攻

本研究は、特別活動の授業として教育課程に位置付けられている学級活動（以下、学活）(1)(2)(3)の授業づくりを援助するために学活(1)(2)(3)プランニングシート（以下、PS）を各学活の特質と学習過程に照らして作成し、その効果を検証したものである。学活(1)のPSは子供たちが自分たちの学級生活の問題を自発的、自治的に話し合い、実践することができるよう教師の働きかけを段階的に行なっていくことを視点に作成した。学活(2)のPSは、自己の生活課題を解決するための解決方法を、学活(3)のPSは将来の生き方を描くための方法を意思決定して実践する自主的、実践的な態度を育成するために、授業前の活動や授業後の活動を重視して作成した。学活PSの効果については、現場の教員や大学院生、学部生の自由記述の内容から検証した。その結果、現職教員には、学活の指導案の代わりになる、授業をプランニングしやすいなどの評価が得られた。また、院生や学生は授業が作りやすい、考えやすいなどの感想があった。

キーワード：学級活動(1)(2)(3) 授業構想援助シート プランニングシート 学活の特質 学習過程

1 研究の目的

(1) 学級活動の特質

学級活動（以下、学活）の特質を目標と内容から考えてみる。

小学校・中学校の学習指導要領（2017年告示）（以下、「学習指導要領」）に示された小学校・中学校の学活の目標は表1の通りである。

表1 小中学校の学級活動の目標

学級や学校での生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成し、役割を分担して協力して実践したり、学級での話し合いを生かして自己の課題の解決及び将来の生き方を描くために意思決定して実践したりすることに、自主的、実践的に取り組むことを通して、第1の目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す。

下線 筆者

目標に示されている「学級や学校での生活をより良くするための…」とは、学活(1)の特質であり、学級や学校の諸問題を解決するために話し合い、実践するという特質があることが示されている。学習指導要領には「(1) 学級や学校における生活づく

りへの参画」という内容で示されている。次に「自己の課題を解決するために意思決定して実践する…」とは、学活(2)の特質であり、児童生徒一人一人の生活課題を解決するための方法を意思決定して実践するという特質が示されている。学習指導要領では「(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」という内容で示されている。そして、「将来の生き方を描くために意思決定して実践する…」とは学活(3)の特質であり、将来の生き方に関する課題を解決するための方法を意思決定して実践するという特質が示されている。学習指導要領では「(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現」という内容で示されている。

学級活動は、平成元年度改訂においてこれまでの学級会活動や学級指導を統合して新設されたものである。学級会活動は、昭和26年改訂時の「教科以外の活動」の活動例に示された（表2）。「教科以外の活動」は、昭和33年改訂で「特別教育活動」となり、学級会は学級児童の全員によって組織される自発的、自治的な活動を基本とする学級会活動へと変遷する。

表2 「教科以外の活動」の活動例

- (1) 民主的な組織のもとに、学校全体の児童が学校の運営などの活動に協力参加する活動としての児童会、児童の種々の委員会、児童集会など
 (2) 学級を単位とする活動としての学級会、種々の委員会
 (3) クラブ活動など

下線 筆者

この特質を強く引き継いでいるのが学活(1)である。この特質が、学活(1)の指導に多いに生かされることが肝要である。

次に「学級指導」は、昭和43年改訂で新設されたが、小学校学習指導要領指導書特別活動編（昭和44年、文部省）には「特別活動において、児童活動、学校行事以外の、学級を中心として指導する教育活動」として示されている。そして、この時の学級指導の目標は「学級における好ましい人間関係を育てるとともに、児童の心身の健康・安全の保持増進や健全な生活態度の育成を図る。」である。学級指導が新設された背景には、少年非行の顕在化がある。つまり、学級指導は、教師の計画的な指導による人間関係の育成や心身の健康、安全の保持増進、健全な生活態度の育成を目指して新設された教育活動であり生徒指導の性質が強い。学活(2)の指導にあたっては、このことを十分に留意する必要がある。

学活(3)は、今回の改訂で「キャリア教育の要」として新設された内容である。キャリア教育は、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義されるが、学活(3)の指導にあたっては、このことを十分に考慮する必要がある。

(2) 学級活動(1)(2)(3)の指導上の課題

学活は、特別活動の授業として時間割に示される週あたり1時間の内容である。ただ、学活は、教科書もなく、各学校の実態に応じた指導に委ねられているという特徴がある。そのため、学級会や学級指導の指導方法については、各学校の先輩教師が若年教師に自分が保持している知識の範囲で指導助言することが多かった。近年、大量退職、大量採用の時代を迎え先輩教員からの指導助言の機会も減少している。そのような課題を解決するために、文部科学省から特別活動の指導資料「楽しく豊かな学級・学校生活を作る特別活動」（平成26年）が出された。この指導資料には、学活(1)(2)(3)の具体的な指導方法が示されており、全国の若年教師に“緑本”として活用されている。

ただ、指導資料は、あくまでも参考であって、各教師の主体的な創意工夫によって、各学級の児

童生徒の実態に応じた学活の授業が作られることが望ましいと考える。そうしないと、児童生徒の実態を無視した画一的な指導が行われることになる。学活は、学級会や学級指導、キャリア教育の特質を踏まえながら、各学級の児童生徒の実態に則した指導が行われることが望ましい。

(3) 学活(1)(2)(3)の特質を踏めた指導法

① 学活(1)の特質と指導法

学活の目標に示された「学級や学校での生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成し、役割を分担して協力して実践する」は学活(1)の内容だが、学習指導要領には、「(1)学級や学校における生活づくりへの参画」という活動と内容が示されている(表3)。

表3 (1)「学級や学校における生活づくりへの参画」の内容

小学校	中学校
ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決	ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決
イ 学級内の組織づくりや役割の自覚	イ 学級内の組織づくりや役割の自覚
ウ 学校における多様な集団の生活の向上	ウ 学校における多様な集団の生活の向上

表3に示された内容のなかでも、特に特別活動の集団活動・実践活動・自主的活動という特質を踏まえているのが「ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決」の内容である。学習指導要領には、この内容について「学級や学校における生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図り、実践すること。」という解説が付されている。

つまり、この内容は、学級や学校生活をよくするための課題を見つけ、その課題を解決するために話し合い、全員の合意で解決方法を決定し、決定したことを実践する活動であるということである。特別活動は、児童生徒の自発的・自治的な活動を基盤とするので、児童生徒自身が、学級生活をよりよくするための問題を自分たちで見つけたり、問題を解決するための話し合いや話し合いで決まったことを友達と協力して、自分たちで実践したりすることができるように、発達の段階や学活(1)の話し合い活動の経験の差に応じて適切に指導することに留意したい。また、この学活(1)の話し合い活動は「学級会」と呼ばれることもある。

また、学級生活の向上を目指した課題が、児童生徒が見いだしたものなのかそうではないのかは、「(1)学級や学校における生活づくりへの参画」の話し合い活動（学級会）に対する児童生徒の課題意識と大きく関わる。どうしてもみんなで話し合っ

れば、学級会に参加する児童生徒の意欲も高まり、話し合いにも熱が入る。それが、教師から与えられた課題を話し合うのであれば、話し合いへの意欲も高まらない。中学校学習指導要領解説特別活動編(以下、中特活解説)には「中学校において、与えられた課題ではなく学級生活における課題を自分たちで見いだして解決に向けて話し合う活動に、小学校の経験を生かして取り組むよう・・・」と示されているが、このことにも留意した指導が求められる。

② 学活(2)の特質と指導法

学活の目標に示された「学級での話し合いを生かして自己の課題を解決するために意思決定して実践する活動」は学活(2)の内容である。学習指導要領には「(2)日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」という活動が示されている。この内容について小中解説には「この内容は、日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康や安全に関するもので、児童(生徒)に共通した問題であるが、一人一人の(生徒)の理解や自覚を深め、意思決定とそれに基づく実践(等を重視する活動)を行うものであり、個々に応じて行われるものである。(下線筆者)」と示されている。ここに示された、日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康や安全に関する問題とは、「(2)日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」が、児童生徒一人一人の適応と成長、健康安全に関する課題を解決する学習を行う、学級における生徒指導の特質を踏まえていることを述べている。また、児童生徒に共通した問題とは、例えば「苦手な食べ物の克服」という題材で学習するとき、一人一人の苦手とする食べ物が野菜類であったり魚貝類であったりするように、解決しなければならない問題が個々にあるような問題のことである。

さらに、意思決定とは、自己決定と同じ意味であり、Gilboa(2015)は「複数の方法や答えの中から、自身に見合ったものを判断して決める認知的活動」だと定義している。つまり、「(2)日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」の学習では、自己の生活課題を解決するための方法を意思決定して、実践することによって「自己指導能力」を育成するのである。自己指導能力については坂本(1990)が「生徒指導の究極のねらいは、児童生徒の中に『自己指導』の力を育てることである。自己指導の力とは、このとき、この場でどのような行動が正しいか自分で判断して実行する力を意味する。」と述べているが、学活(2)の指導において留意しておかなければならない。学活(2)の内容は、表4に示す通りである。

表4 小中学校学活(2)の内容

小学校	中学校
ア 基本的な生活習慣の形成	ア 自他の個性の理解と尊重、
イ より良い人間関係の形成	より良い人間関係の形成
ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成	イ 男女相互の理解と協力
エ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成	ウ 思春期の不安や悩みの解決、性的な発達への対応
	エ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成
	オ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

表4に示してある内容が、学活(2)で取り上げる生活課題である。各学校の児童生徒の実態や発達の段階に応じて、この内容に係る題材を指導計画に設定していくことが求められる。

③ 学活(3)の特質と指導法

学活の目標に示された「学級での話し合いを生かして将来の生き方を描くために意思決定して実践する活動」は学活(3)の内容である。学習指導要領には「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」(以下、学活(3))という活動が示されている。この内容については、小中解説に「この内容は、個々の児童(生徒)の将来に向けた自己実現に関わるものであり、一人一人の主体的な意思決定に基づく実践(活動)にまでつなげることをねらいとしている。今回の改訂においては、特別活動を要として、学校(教育全体)の教育活動全体を通してキャリア教育を適切に行うことが示された。(下線筆者)」と示されている。ここに示された、個々の児童生徒の将来に向けた自己実現に関わるものとは、キャリア教育に関わる内容である。

今回の学習指導要領の改訂で小学校、中学校、高等学校で系統的にキャリア教育が行われるように学活(3)の内容に「一人一人のキャリア形成と自己実現」の内容が示された。このことは、2011年の中央教育審議会の答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」において示されていたことが、今回の改訂で明確になった。小中の解説には、学活(3)の留意点として「一つ目は、総則において、特別活動を学校におけるキャリア教育の要としつつ学校の教育活動全体で行うこととされた趣旨を踏まえることである。

二つ目は、ホームルーム活動(3)の内容が、キャリア教育の視点からの小・中・高等学校のつながりが明確になるよう整理されたということである。」の二点を示している。(下線筆者)

一つ目の留意点に示されている「特別活動がキャリア教育の要となる」ということは、学校教育全体でキャリア教育を行うということを前提としつつ、学活(3)で行う「一人一人のキャリア形成と自己実現」の授業を要とするということである。

これは、学校教育全体で進めるキャリア教育を学活(3)の学習で、深めたり、補ったり、まとめたりするという示している。例えば、児童生徒は、係活動や当番活動について、みんなのために学級のために働くのだから、自分の役割責任を果たすようにとか、決まりや約束を守るようにとかの指導を受けるが、このことを題材にして「なぜ、係活動や当番活動で責任を果たさなければならないのだろう。」「なぜ、係で決めたことを果たさなくてはならないのだろう。」という視点から、日頃の自分たちの活動の様子を振り返る学習を行い、働くことの意義についての理解を深めることができるということである。二つ目の留意点については、学活(3)の内容は、将来に向けた自己実現に関わるものであり、一人一人の主体的な意思決定を大切に活動なので、小学校から中学校、高等学校へのつながりを考慮しながら、就業体験活動や進学や就職に向けた指導などの固定的な活動だけにならないようにするということが示されている。これらの留意点についても踏まえながら授業を構想することが大切である。学活(3)の内容は「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」の内容は表5に示す通りである。

表5 学活(3)の内容

小学校	中学校
ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成	ア 社会生活、職業生活との接続を踏まえた主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用
イ 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解	イ 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成
ウ 主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用	ウ 主体的な進路の選択と将来設計

これらの内容は、高等学校段階までに指導すべき適切なものが設定してある。それぞれの学校段階では、このことを十分に留意して各学校段階で取り扱う題材を年間指導計画に位置付けていくことが大切である。

2 研究

(1) 学活(1)(2)(3)のプランニングシート

これまで述べたように、学活(1)(2)(3)には、それぞれ固有の特質がある。学級担任は、この特質を踏まえながら授業を構想していかなければならない。また、今回の改定で「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が求められた。このことにも留意した授業づくりをしていかなければならない。そこで、今回、各活動・学級活動の学習過程(例)が示された。この学習過程と学活(1)

(2)(3)の特質を考慮しながら授業構想ができるようにしたのが「プランニングシート」(以下、PS)である。学活の授業は、1時間の授業だけでは学活(1)(2)(3)のねらいを達成することはできない。また、深い学びも実現できない。

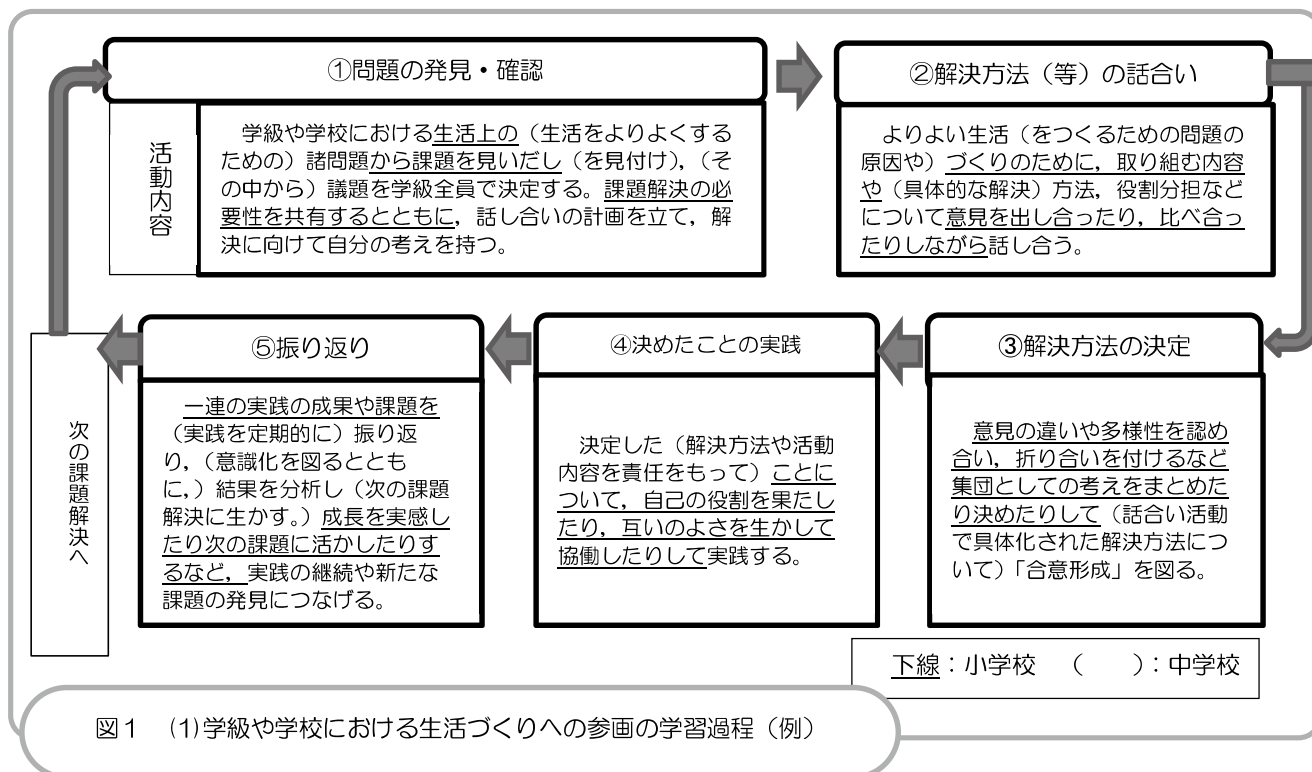
PSは、学活の授業の事前から、授業、授業後に教師がどのようなことを考え、実践すればいいのかを明記し、授業の全体を俯瞰しながら構想できるようにしたものである。

(2) 学活(1)のプランニングシート

① 学活(1)の学習過程

図1は、学習指導要領に示された学活(1)の学習過程(例)である。学習過程の①「問題の発見・確認」の段階では、児童生徒が自分たちで学級生活の向上を目指した課題を見つけることができるように、議題ポストや議題ボードを活用させたり日記や生活ノートなどに書かせたり、朝の会や帰りの会などで「学級の問題」を発表させたり児童生徒の「学級生活への不満」などのつぶやきなどを注意して聴いたりする教師の指導観が求められる。また、児童生徒が所属する学級に対する所属感や所属意識、連帯感や連帯意識が醸成するように日頃から、学級での生活や人間関係などについての教師の考えを伝えておくことも大切である。さらに学活(1)の話合い(学級会)のお世話をする計画委員会や学級会係、班長会、HR委員等の組織を活用して、学級会で話し合う議題を全員で決定するようにする。その時「学級生活をよくする問題か(課題性)」「学級のみんなに関係する問題か(相互性)」「自分たちで実践できる問題か(現実性)」などの選定の視点を示して、可能な限り自分たちで議題を選定することができるようにする。

学習過程の②「解決方法(等)の話合い」と③「解決方法の決定」は、話合い活動(学級会)である。指導資料には「出し合う→比べる→まとめる」という話合いの流れが示してある。話合いに慣れていない児童生徒には、話合い活動(学級会)における意見の出し方や出された意見の吟味の仕方、自分も良くてみんなも良い意見へのまとめ方などを指導する際には有効だが、話合いは、児童生徒の実態に応じて多様に展開されるものなので、日常行われている国語科などの教科等の授業で「話し合いによって考えを深める授業」を行っておくことが肝要である。教科等の授業で経験した話合いが学活(1)の話合い活動(学級会)に生きて働くようにすることが大切である。



学習過程の④「決めたことの実践」は、話し合いで決まったことを実践する段階である。学級集会活動について話し合った学級の実践は、学級集会に向けた係りごとの準備や、発表内容の練習、学級集会の本番などである。例えば、合唱コンクールの練習計画について話し合った学級では、計画に沿った練習を、文化祭の出し物について話し合った学級では、文化祭実行委員のリードで計画に取り掛かかかる。このような実践に取り組む中で、児童生徒は、一人一人の役割を遂行したり友達と協働したりすることによって、友達との心的な結びつきが深まるとともにより良い人間関係が形成される。

そして、学習過程の⑤「振り返り」は、問題の発見から話し合い（学級会）、実践までを評価する段階である。学級生活の向上を目指して取り組んできた自分や友達の取り組みの様子や学級成員の成長などについて振り返る。川本（2018）は、YWT法「やったこと（Yattakoto）、わかったこと（Wakattakoto）、次に挑戦したいこと（Tyousennsitaikoto）」などの振り返りの視点を明確に与え、4、5人の小集団で振り返りをするのが効果的だと述べている。

② 学活(1)のPS

学級会 PS は、以下の①～⑦の視点から授業を構構することができるように校内研修や授業等で紹介している。

① 今、子供たちの問題意識はどこにあるのか。

子供たちの問題意識（自分たちで話し合って解決しなければならないと強く思っていること。）が何なのかを明記します。子供たちの問題意識は、日頃から、担任が学級の生活や人間関係について働きかけることによって「生活を見つめる眼」が育ち、そこから生まれます。子供たちの問題意識は、議題箱や議題ボード、日記や子供との会話、教師の観察等から把握します。

② この問題を解決することによって、子供たちはどのように成長するのか

この問題を自発的、自治的に解決することによって、本学級は集団としてどのように成長するのか。成長してほしいのか。担任の学級という集団の質の向上への期待を書きます。

③ 学級会を通して育てたい資質・能力

ア 知識・技能

例) この問題を話し合って解決することによって学級内の人間関係がより良いものになることに気づく。自分たちで、話し合いを進める手順を身につける。

イ 思考力・判断力・表現力等

例) どうすれば学級生活がより良いものになるのか、自分にも学級にも問題のない方法を合意形成できる。

ウ 学びに向かう力・人間性等

例) 学級生活の向上を目指して、友達と協力して話し合ったり、決まったことを実践したりすることができる。

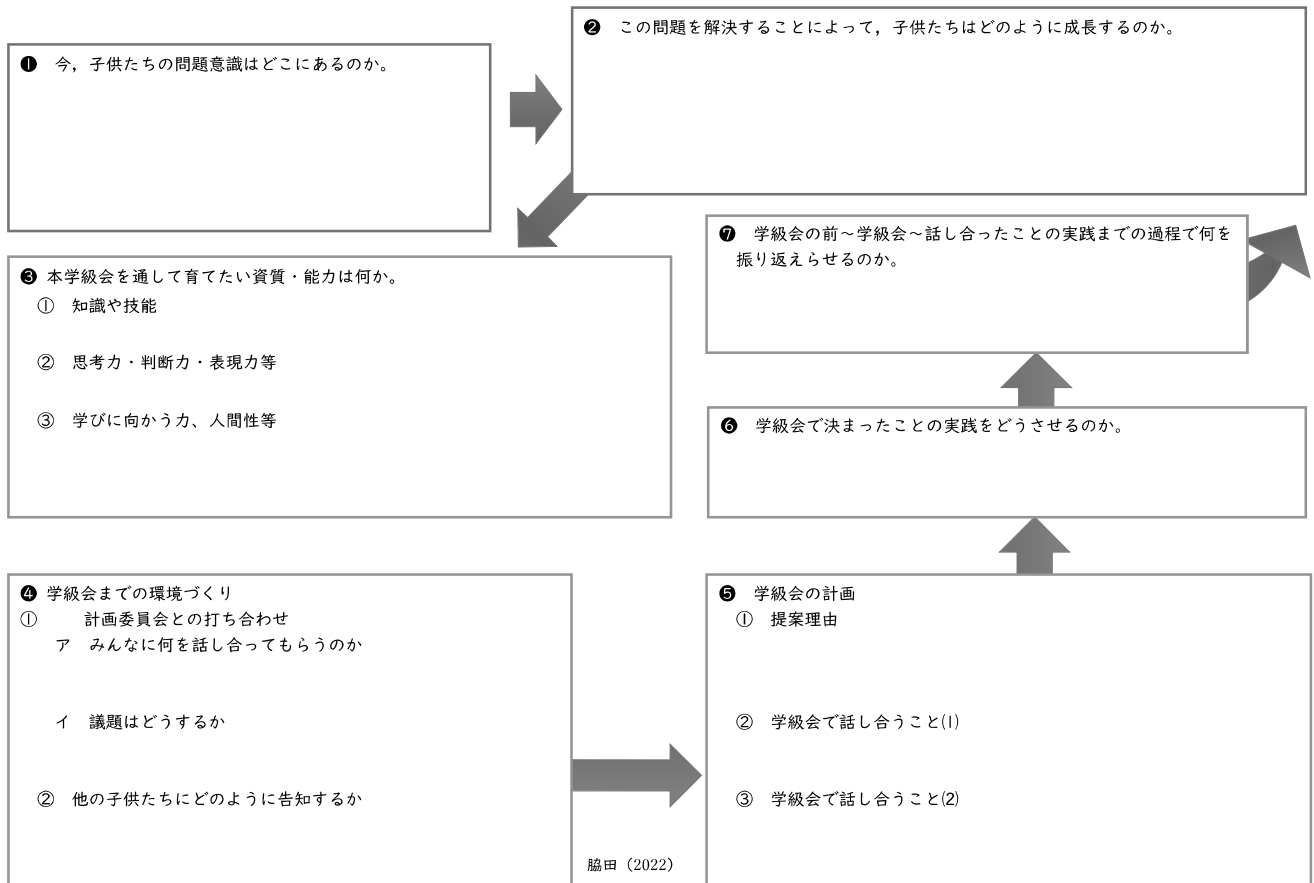


図2 学活(1)プランニングシート

④ 学級会・HR 会議までの環境づくり

ア 計画委員会と次のことを打ち合わせます。

a みんなに何を話し合ってもらうのか

問題を解決するためには、いくつか解決しなければならぬ課題があります。その課題のうち、全員で話し合った方がいいものを決定します。

b 議題は何か

例) みんなの心が一つになる合唱コンクールの計画を立てよう。

※ 望ましい議題の条件 (青木, 1977)

- ・学級生活に直接結びつく問題
- ・学級の全員に共同の問題
- ・児童の自治的活動の範囲内と認められる問題
- ・児童の発達段階に相応しい問題
- ・何をどうすれば良いかが児童に理解できる問題

イ 他の子供たちにどのように学級会について告知するか計画委員会から告知する方法 (口頭, 文書)

⑤ 学級会・HR 会議の計画

ア 提案理由

提案理由は、この議題を話し合う理由であり、計画委員会の子供たちと話し合いながら、子供たちの言葉で (自分たちの文字で) 表現します。

イ 学級会で話し合うこと (学級会の柱)

本議題を解決するための協議事項です。

いくつの柱を立てるのか計画委員会と話し合います。話し合い後実践に結びつくような柱を立てます。

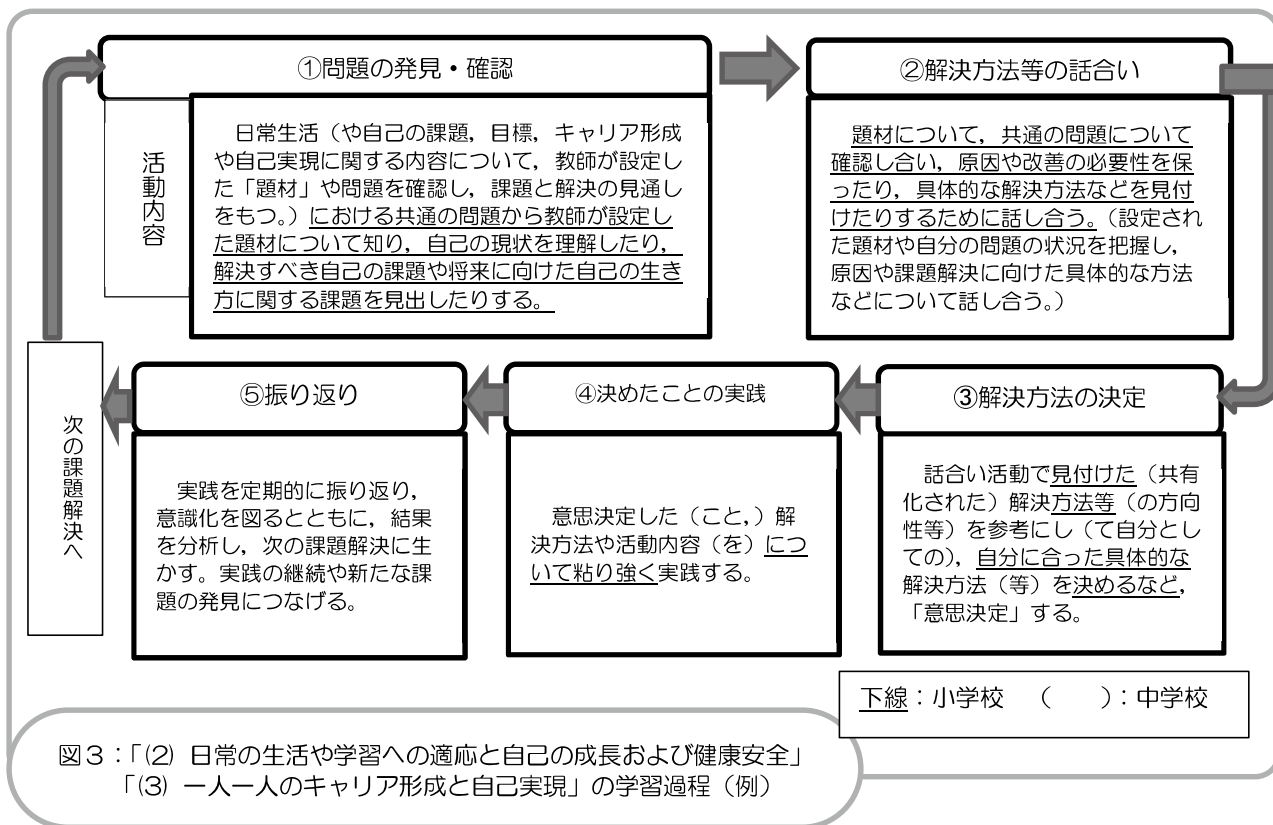
⑥ 学級会で決まったことをどう実践させるのか

学級会で合意形成されたことをどのように実践するのか見通しを持ちます。

- ・いつするのか (〇月〇日〇曜日 〇限)
- ・どのような形で実践するのか
- ・子供の自発的活動の範囲を十分に考慮する
健康や安全 金銭の徴収 校内の施設等の利用
教育課程の変更 個人情報やプライバシー
相手の人権を傷つけることが予想されるもの

⑦ 学級会の前～学級会～話し合ったことの実践までの過程で何を振り返らせるのか

学級会の取り組みは、子供たちの問題意識から生まれた議題をどのように話し合うのか計画を立てた「学級会の前段階」から「学級会」、「学級会後の実践」の一連の過程を振り返らせます。その過程で自分の良さをどう発揮したのか、友達の関わりで学んだことは何か、見つけた友達の良さなどについて振り返らせます。



(3) 学活(2)のプランニングシート

① 学活(2)の学習過程

図3は、小中の解説書に示された学活(2)(3)の学習過程である。学習過程の①「問題の発見・確認」の段階では、「(2)日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」の年間指導計画に基づいて教師が題材を設定する。この段階では、学習の予告をしたり題材に関する情報収集をさせたりすることで、学習に対する意欲を高めることができる。学習過程の②「解決方法等の話し合い」と③「解決方法の決定」は、学活(2)の授業である。自己指導能力を形成するために意思決定する学習については、指導資料に示されている「つかむ→さぐる→見付ける→決める」が参考になる。つかむ段階では、資料等を活用して本時学習のめあて（目標・ねらい等）を把握する。さぐる段階では、問題が発生する原因を追求する。見付ける段階では、より良い解決方法を話し合いによって見つける。学活(1)の話し合い活動が、学級生活の向上を目指して共同の問題を全員で話し合って解決するのに対して、この段階の話し合いは、より良い解決方法を意志決定するための選択肢を見付けるための話し合いになる。次に、④「決めたことの実践」の段階は、意思決定した行動目標の達成を目指して実践する段階である。児童生徒の行動を変容させ習慣

化させるためには、ある一定期間取り組みを続けることが肝要である。小学校などでは「がんばりカード」のような評価票を用いて、自分で決めた行動目標の達成状況を自己評価させることも大切である。中学校や高等学校においても、学習後の実践が一定期間継続して取り組まれるようにする学級活動・ホームルーム活動ノートなどを活用させるなどの工夫が大切である。現在、ほとんどの学校で児童生徒一人一人にタブレットが配布されているが、自己の生活課題の解決状況をタブレットに記録していくことも考えられる。そして、⑤「振り返り」の段階では、意思決定した行動目標の達成状況を振り返らせる。児童生徒の中には、自分で立てた目標が難しすぎて途中でくじけてしまう子どももいる。あるいは、早々に目標を達成して飽きがきてしまう子どももいる。そのような子どもには、教師が目標の修正や付加、強化について支援することも必要である。このことが、今回の学習指導要領の改訂で示された「カウンセリングの充実」にあたる。学習後も、児童生徒一人一人の学習状況を丁寧に見守り、一人一人に応じて関わっていく教師の教育観が求められる。

② 学活(2)のPS

学活(2)PSは、以下の①～⑥の視点から授業を構想するよう紹介している（図4）。

第 学年 組 学級活動(2)・HR 活動(2)プランニングシート

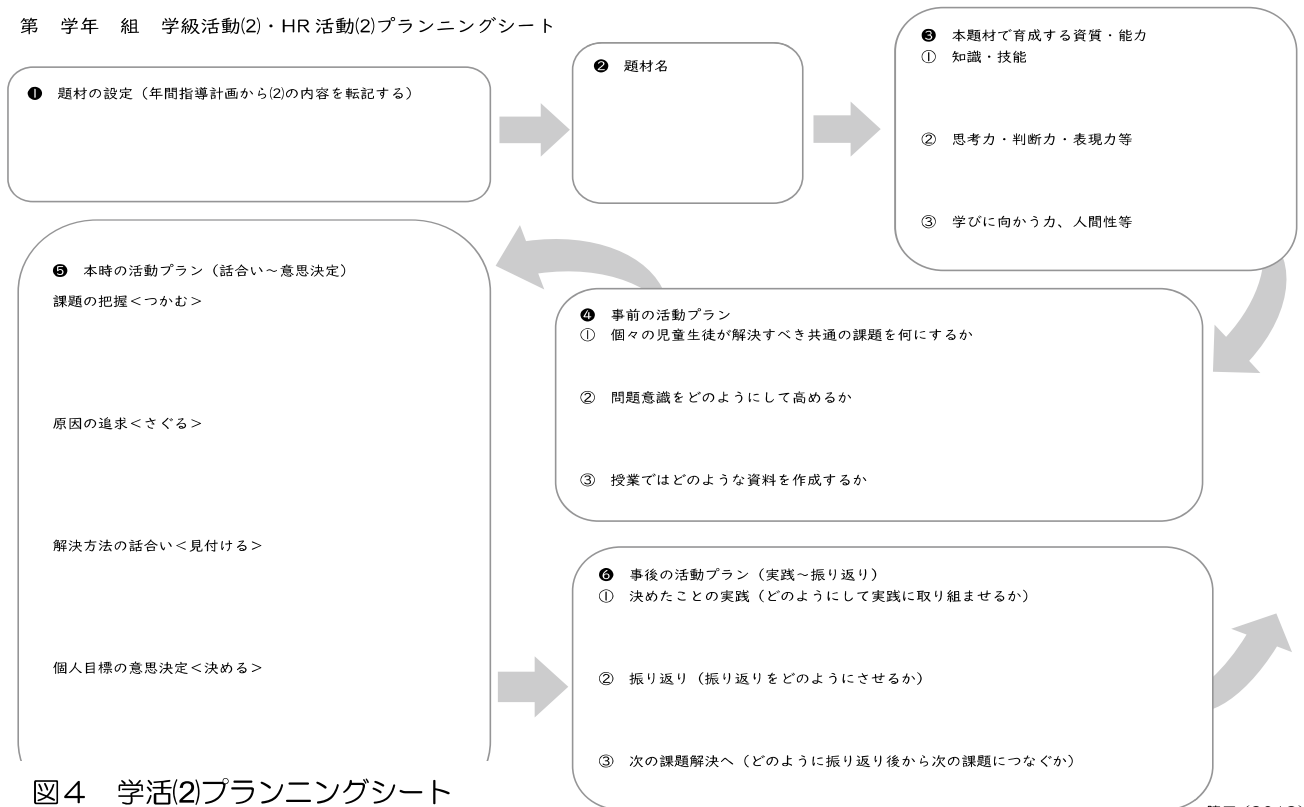


図4 学活(2)プランニングシート

脇田 (2018)

以下の学活(2)の PS は「特別活動の指導法」において学生に紹介したものである。

本授業では、以下の課題から学生に作成させた。

◆題材は、コロナウイルスに関するものとします。
 コロナウイルスの感染は、いまだに終息に向かいません。そればかりか、感染力の強い、新たなウイルス株も発見されています。児童生徒には、自分たちが感染を未然に防ぐ主体的な態度の育成が求められます。また、コロナウイルスの感染に対する差別や偏見も生まれています。

あなたは、学級活動(2)ホームルーム活動(2)の授業でこのことを題材にした授業をすることになりました。どのような授業プランを立てますか？

① 題材の設定（年間指導計画から(2)の内容を転記する）

※ 学級活動(2)の授業は、学校が作成した学級活動の指導計画に基づいて行う。

小学校：ア 基本的な生活習慣の形成

イ 望ましい人間関係の形成

ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

中学校：ア 自他の個性の理解と尊重、より良い人間関係の形成

エ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成

② 題材名

学習することがイメージできる題材名

※ 学級活動(1)の議題と区別する。

(みんなで大縄を跳んで思い出に残る運動会にしよう)

例) 手あらいの大切さ

自分たちにできる予防策

僕の、私の感染予防策

身近な人の感染

コロナと戦う人々

③ 本題材で育成する資質・能力

＜感染拡大に視点を当てた場合＞

○知識・技能

新型コロナウイルス感染拡大を防ぐという自己の生活上の課題の解決に向けて取り組むことの意義を理解するとともに、そのために必要な知識や行動の仕方を身に付けるようにする。

○思考力・判断力・表現力等

新型コロナウイルス感染拡大防止に必要な解決方法に気づき、多様な意見を基に、自分に適した解決方法を意思決定することができるようにする。

○学びに向かう力・人間性等

新型コロナウイルス感染拡大防止に向け、他者と協働して課題解決に向けて粘り強く取り組んだり、進んで健康で安全な生活習慣を形成したりしようとする態度を養う。

＜感染者や医療従事者への差別や偏見に視点を当てた場合＞

○知識・技能

新型コロナウイルス感染した人やその周りの人への差別や偏見があることを知るとともに、身近な人が感染

したときの適切な振る舞い方を身に付けるようにする。

○思考力・判断力・表現力等

新型コロナウイルスに感染した人々への、望ましい対応の仕方に気付き、多様な意見を基に、自分にもできる解決方法を意思決定することができるようにする。

○学びに向かう力・人間性等

新型コロナウイルスに感染した人々や感染防止に懸命に努めている人々に対して、正しい理解を身に付け、温かい気持ちで接していこうとする態度を養う。

④ 事前の活動プラン

ア 共通の課題

- ・「自分たちにできる感染拡大防止」という共通の課題
- ・「身近な人が感染した時にできること」という共通の課題

イ 問題の意識化

- ・自分たちにもできる感染拡大防止について事前に調べさせておく。
- ・感染者への差別や偏見の新聞記事を読み感想を書かせておく。

ウ 授業で活用する資料

- ・つかむ段階
グラフ・紙芝居, ペープサート
- ・決める段階
がんばりカード, 学級会ノート
拡大した新聞記事

⑤ 本時の活動プラン（話し合い～意思決定）

<感染拡大に視点を当てた場合>

【つかむ段階】

ア 本時学習のめあてをつかむ

- 1週間の感染者数を表すグラフを提示し、まだ気をつけなければならないことに気づかせ、自分たちでもできる予防策について考えるというめあてを持つ。

【めあて】 自分にできる感染防止の仕方を見つけよう。

【さぐる段階】

イ 今がんばっている予防策を出し合う

- 今、それぞれが気をつけていることを発表する。

【見つける段階】

ウ 解決方法について話し合う

- a 校医さんから正しいマスクの付け方や手洗いの仕方、自分たちでもできる防止策について話を聞く。
- b 自分たちでもできる防止策、もっと効果的な防止策について話し合う。

【決める段階】

ウ 自己目標を意思決定する

- 自分にできる解決方法を決める。

例) ・指や手首などもしっかり洗う。・マスクは鼻と口をしっかりと覆う。・休み時間は窓を開けて換気する。

<感染者や医療従事者への差別や偏見に視点を当

てた場合>

【つかむ段階】

ア 本時学習のめあてをつかむ

- 感染者数が差別や偏見を受けているという新聞記事を読み、自分たちはどのように振る舞うことが大切かということを考え本時学習のめあてをつかむ。

【めあて】 身近な人が感染した時のより良い行動の仕方を見つけよう。

【さぐる段階】

イ 感染者やその家族について話し合う

- 感染者や家族の人々の手記などから、その人々の思いを話し合う。

【見つける段階】

ウ 解決方法について話し合う

- a 自分の身近な人が感染した時に、どのように行動すればいいかを話し合う。
- b 自分の周りで感染者が出たときに、どのように行動すればいいか話し合う。

【決める段階】

エ 自己目標を意思決定する

- 自分にできる解決方法を決める。

例) ・自分の家族が感染したら励まし助け合う。

- ・身近な人が感染したら、感染者の思いを想像する。
- ・手紙などの励ましの言葉を送る。

⑥ 事後の活動プラン（実践～振り返り）

ア 決めたことの実践

※自分で決めた感染拡大防止策に取り組む

※感染者が出たら、自分で決めたことを実践する。

イ 振り返り

※自分で決めた感染拡大防止策に5日間取組み、振り返りをしてから、さらに5日間取組み。

※個々の取り組み状況に応じて、カウンセリングをする。（個別に関わる）

※振り返りの視点

例) 自分が取り組んだことは何か

取り組んで分かった事は何か

次に挑戦したい事は何か

ウ 次の課題解決へ

※感染状況に関心を持ち、収束に向かうまで健全に生活する。

(3) 学活(3)のプランニングシート

① 学活(3)の学習過程

学活(3)の学習過程も図3に示したとおりであるが、先に示したように学活(2)と(3)の特質は異なるので、学習過程の捉え方も異なってくる。学習過程の①「問題の発見・確認」の段階では、学校が作成した「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」の年間指導計画に基づいて教師が題材を設定する。

授業は、各学年の発達段階に応じた内容を少しずつ継続して行うことが大切なのでキャリア教育に関する計画を作成しておくことは肝要である。また、この段階では、学活(2)と同じように、課題意識を高めておくことも大切である。学習過程の②「解決方法等の話し合い」と③「解決方法の決定」は、学活(3)の授業である。将来の生き方を描くための課題を学習するので、なりたい自分に向かって自分の目標を決め、実践していく未来志向型の授業がじっくりくるので「つかむ→出し合う→話し合う→決める」という学習の流れを紹介している。つかむ段階は、将来の生き方に関する課題を解決するためになりたい自分像を紹介し合い、本時学習のめあてをつかむ。出し合う段階では、将来の生き方に関する課題を解決するために、今、具体的に努力していることを出し合う。話し合う段階は、これまでの取組みを振り返り、見つけた解決策や調べて分かった解決策などを話し合う。決める段階は、展開後段の話し合いを受け、気付いた改善点を意思決定し、行動を起こす段階である。この段階の話し合いも、より良い解決方法の意志決定につながる話し合いになる。次に、④「決めたことの実践」の段階は、学活(2)と同じように意思決定した行動目標の達成を目指して実践する段階である。この段階で、ノート形式やタブレットに記

録していくキャリアパスポートの活用も考えられる。そして、⑤「振り返り」の段階では、意思決定した行動目標の達成状況を振り返らせるが、一人一人の達成状況に応じたキャリアカウンセリングが求められる。中学校、高等学校と学年が上がるにつれて、生徒個々のキャリア発達を支援する組織的なキャリアカウンセリングも学活(3)、ホームルーム活動(3)と関連させることも大切である

② 学活(3)のPS

学活(3)のPSは、以下の①～⑥の視点から授業を構想している(図5)。次のPSは、令和4年度の前期に福岡教育大学生に実施した「特別活動の指導法」において指導したものである。

◆題材は、主体的な学習態度の形成(確立)に関するものとしてします。
 学級・HR活動(3)の指導計画では、主体的な学習態度の形成(確立)に関する学習をすることになっていきます。主体的な学習態度とは「学習は、自分のこれからに大切なんだ。頑張ろう!」という態度です。このような態度を形成するために、あなたは、学級活動(3)の授業でどのような授業プランを立てますか?

① 題材の設定(年間指導計画から(3)の内容を転記する)

- 小学校(第5学年)ウ 主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用
- 中学校(中学1年)ア 社会生活、職業生活との接続を踏まえた主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用

第 学年 組 学級活動(3)/HR活動(3)プランニングシート
 学籍番号< >氏名【 】

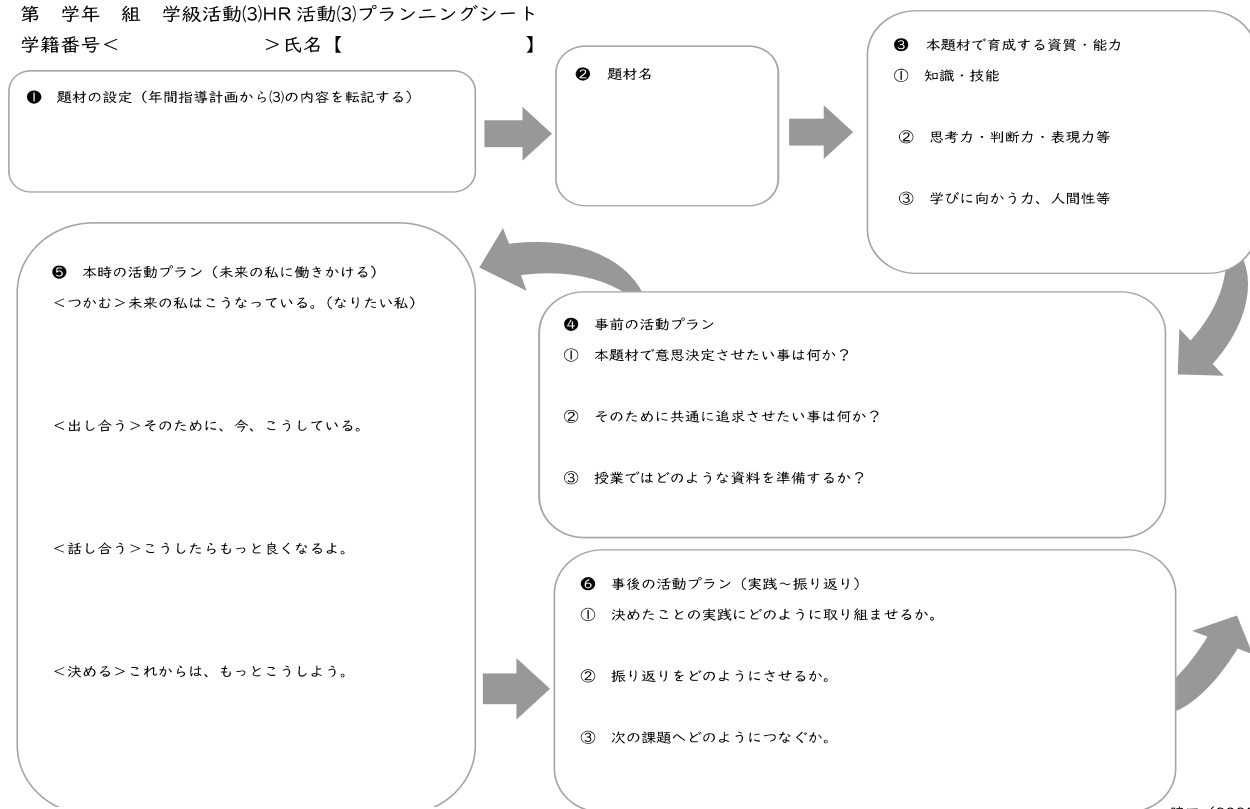


図5 学活(3)プランニングシート

脇田 (2022)

② 題材名

例) 小学校:「僕の私の家庭学習」
中学校:「初めての定期考査」

③ 本題材で育成する資質・能力

<小学校:「僕の私の家庭学習」の場合>

○知識・技能

家庭学習の大切さを知り、自分に合った家庭学習の取組み型を身につけることができる。

○思考力・判断力・表現力等

自分に合った家庭学習時間を、帰宅後の時間を見直して意思決定することができる。

○学びに向かう力・人間性等

帰宅後の時間を有効に使い、進んで家庭学習に取り組もうとする態度を育てる。

<中学校:「初めての定期考査」の場合>

○知識・技能

定期考査の意義を知り、そのための学習方法を身につけることができる。

○思考力・判断力・表現力等

定期考査に向けた学習の仕方を、先輩や同級生の取り組み方から学び意思決定することができる。

○学びに向かう力・人間性等

定期考査に向けた学習計画を立て、進んで学習に取り組もうとする態度を育てる。

④ 事前の活動プラン**① 本題材で意思決定させる事は何か**

小学校:家庭学習の時間を1時間確保するためにテレビを見る時間を減らす。

中学校:テスト範囲が示されたら、そこを中心に復習する。

② そのために共通に追求させたい事は何か?

小学校:帰宅後の時間を見直し、自分に合った家庭学習時間を見つける。

中学生:定期考査前の学習や家庭学習の仕方を追求する。

③ 授業ではどのような資料を準備するのか

小学校:帰宅後のタイムスケジュールが立てられる日課表
家庭学習計画表(タブレット)

中学校:定期考査を経験した先輩へのインタビュー(VTR)
定期考査前の学習方法について情報収集をまとめたもの
定期考査までの学習計画表

⑤ 本時の学習プラン(未来の私に働きかける)

<小学校:「僕の私の家庭学習」の場合>

【つかむ段階】

○ 家庭学習に関するアンケートの提示

「それぞれ、頑張っているな」

○ 家庭学習の意義を話し合いによって見つける。

「なぜ、家庭学習に取り組むのだろう」

【出し合う段階】

○ 今の段階で、家庭学習をするのに頑張っている事を紹

介する。

○ もっと、家庭学習を充実させたいと思っている事を出し合う。(時間の確保)

【話し合う段階】

○ 帰宅後の過ごし方を見直す。

○ 家庭学習の時間を確保するために、改善できるところはないか見直す。

【決める段階】

例) A男:夕食後のテレビを見る時間を減らす。

B子:帰宅後すぐに1時間の家庭学習をする。

<中学校:「初めての定期考査」の場合>

【つかむ段階】

○ 初めての定期考査での抱負を出し合う。

- ・全教科の平均点を超えたい。
- ・得意強化の得点を伸ばしたい。

【出し合う段階】

○ 今、取り組んでいる事を紹介し合う。

○ 思うようにいかないところを紹介する。

(頑張ろうと思うのだけど、勉強の仕方が分からない)

【話し合う段階】

○ 定期考査を経験した先輩からのビデオレターを試聴する。「僕は、私はこうして勉強しました。」

○ 先輩の話や情報収集してきたことから、望ましい学習方法について話し合う。

【決める段階】

例) A男:試験範囲が示されているので再度見直す。

B子:自分の試験対策をもう一度立て直す。

⑥ 事後の活動プラン(実践~振り返り)**① 決めたことの実践にどのように取り組ませるか。**

小学校:意思決定した家庭学習計画に沿って実践させる。

中学校:自分の定期考査対策に沿って取り組ませる。

② 振り返りをどのようにさせるか。

小学校:初めの1週間で中間の振り返りをさせる。

中学校:定期考査までの帰りの会で見直しをさせる。

定期考査後、YWTの視点で振り返らせる。

Y:自分がやったことは何か

W:取り組んで分かった事は何か

T:次にやる事は何か

③ 次の課題解決へ

小中学校:学活ノートやキャリアパスポートに、次に頑張ってみることを書かせる。

3 総合考察

学級活動(1)(2)(3)のPSは、学級活動の授業づくりの援助シートである。このシートの効果については、PSを活用して授業づくりをしたことのある教員等の自由記述やテキストマイニングの分析から行う。

テキストマイニングとは、テキストデータを計算機で定量的に解析して有用な情報を抽出するための様々な方法の総体であり、自然言語処理、統計解析、データマイニングなどの基盤技術の上に成り立っている(松村, 三浦, 2014)。本研究では、ユーザーローカル AI テキストマイニングツールによる分析を用いた。(<https://textmining.userlocal.jp/>)

(1) 自由記述の内容から

M地区の小学校特別活動研究会は「主体的に社会の形成に参画しようとする態度を育てる学級活動の創造」を研究主題に研究を推進している。そこでは、具体的な授業づくりの手立てにPSを活用している。その研究をまとめた冊子に、PSの活用について表記してある(表6)。

表6 プランニングシートの効果

- 一連の学習の流れを意識しながら、指導することができた。
- 態度面の育成につながってきている(子供たちの振り返りから)。(自分たちの学級の課題を解決したいという思いが強まる)
- どのような手順で授業づくりをしていけばいいかわかる。
- 事前事後の活動も含めた、活動全体の見通しをたてて計画することができた。
- 実態に合わせて、育てたい資質・能力を設定し、身に付けさせるための流れを整理することができた。

ここに記述してある内容から、授業者はPSを作成して授業を行うことによって「学習の一連の流れ」や「授業づくりの手順」を理解し「活動全体の見通し」をもてたことが分かる。このことから、学級活動の授業づくりを援助するというねらいは達成できたのではないかと考える。

(2) 教員と学生のテキストマイニングから

図6は、福岡教育大学教職大学院の脇田ゼミで特別活動を学び、現在、現場で研究主任等の職にある教員や校内研究等で他の職員にPSについて自由記述したもののテキストマイニングである。学活の指導案の代わりにPSに書き入れやすい、

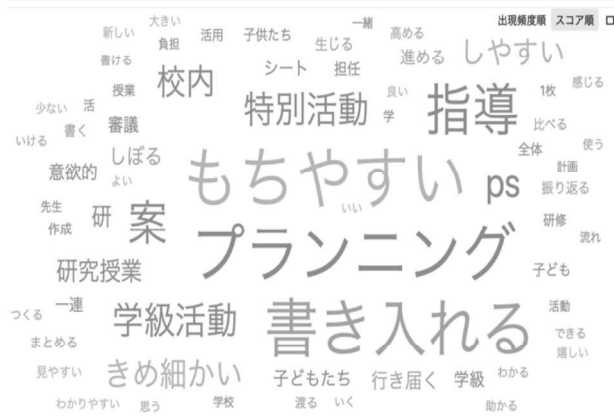


図6 教員のテキストマイニング

授業についての審議会がもちやすい、授業をプランニングしやすいなどの記述が多かった。

図7は、PSを活用して授業構想した院生や食に関する授業構想した学生に、PSの良さについて自由記述してもらったもののテキストマイニングである。現場での教職経験のない院生や学生でもPSで学活の授業をプランニングするのは「作りやすい」「考えやすい」「入りやすい」「分かりやすい」という感想を持っていることが分かる。このこと

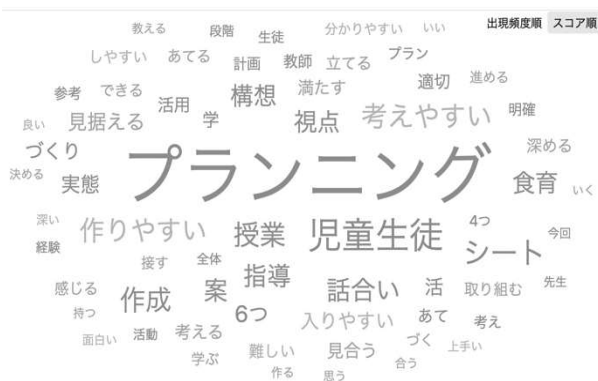


図7 院生・学生のテキストマイニング

から、PSは授業構想援助シートとしての機能を発揮すると考える。

今後は、学活(1)(2)(3)それぞれのPSの効果を調査することによって、それぞれの学活の特質に応じた授業構想援助の質を高めていきたい。また、学活(1)の特質である自発的、自治的な話し合い活動にするために、子供たちにPSを作成させることによる効果についても明らかにしていきたい。

学活は(1)(2)(3)という特質があることによって分かりにくいという声も聞かれる。ただ、児童生徒がこれからの時代を生きていく時の集団や社会の形成者に必要な力を育成することも否めない。そのためにも、誰でも気軽に、そして積極的に学活の特質に応じた授業づくりができるような援助シートの精度を高め援助していきたい。

引用・参考文献

- Gilboa 2014 不確実性下の意思決定 勁草書房
- 株式会社アンド 2018 ビジネスフレームワーク図鑑すぐ使える問題解決・アイデア派そうツール70 翔泳社
- 文部省 1969 小学校指導書特別活動編
- 文部科学省 2017 小・中学校学習指導要領
- 文部科学省 2017 小学校学習指導要領解説特別活動編
- 文部科学省 2017 中学校学習指導要領解説特別活動編
- 文部科学省・国立教育政策研究所教育課程研究センター 2017 「みんなで、より良い学級・学校生活をつくる」
- 松村真宏・三浦麻子 2014 人文・社会科学のためのテキストマイニング[改訂新版] 誠信書房
- 坂本昇一 1990 『生徒指導の機能と方法』 文教書院